

平成 21年 9月 7日

学会発表旅費補助報告書

| | | |
|---|--|-------------------------------|
| 1. 所属研究室 集積回路情報研究室 (ES1) | 2. 申請者氏名 (フリガナ) (学籍番号) 塩木 講輔 (シオキ コウスケ) (081T229T) | B4 D1 M1 D2 (で囲む) M2 D3 |
| 3. 学会、研究会の名称 DA シンポジウム 2009 システム LSI 設計技術と DA- | | |
| 4. 開催会場、所在地 ホテル アローレ(石川県加賀市柴山町と5-1) | | |
| 5. 開催日程 平成 21年 8月 26日 ~ 平成 21年 8月 27日 | | |
| 6. 研究発表題目 素子のクラスタリングを用いた論理診断手法 | | |
| 7. 研究発表報告 <p>この度、竹水会よりご援助いただき、2009年8月26日から8月27日まで石川県加賀市ホテルアローレにおいて開催された情報処理学会主催の DA シンポジウムに参加し、研究成果を発表して参りました。DA シンポジウムは、システム LSI の設計技術および設計自動化技術に関する最新の技術発表と技術動向情報の交換を目的とした学会であります。また、会場と宿泊施設がセットになっており、夜に行われる懇親会や、他大学の方々と部屋が同室となることで、参加者同士による活発な議論や情報交換を行うことができます。本学会のプログラムは、招待講演が3件、各研究テーマで並列に行われる発表が32件の計35件の公演が行われました。一般講演35件の内、大学からの発表が29件で、企業からの発表は3件でした。参加者はおよそ100名でした。</p> <p>私は1日目の診断・テスト・検証のセッションにおいて、“素子のクラスタリングを用いた論理診断手法”という題目で発表した。提案手法によって、組合せ回路をFFRと呼ばれる領域に分割し、それぞれを一つのクラスタとして扱うことにより、論理診断処理の処理時間を削減しました。さらに、従来手法では、処理時間やメモリの容量不足により修正できなかった回路について、提案手法を用いることで修正解が得られることを確認しました。</p> <p>三度目の対外発表ということもあり、落ち着いて発表することができました。何度も発表練習を行った成果からか、発表後の質疑応答も昨年度以上に盛り上がり、とても充実しました。また、質疑応答では大変貴重な意見をたくさん頂くことができました。それらの意見は、今後の研究の発展の方向性について、大変参考になるものでした。</p> <p>また、発表練習のために、貴重な時間を割いてくださった先生、先輩方には大変感謝しております。最後になりましたが、このような経験を体験することができましたのも、竹水会からのご援助を頂いたおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。</p> | | |

